

平成 28 年度 第 4 回経営会議概要

- 1 開催日時：平成 28 年 9 月 1 日（木）9:15～9:50
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり

議題 1 財政の健全化に向けた具体策について

【松下財政課班長（歳出関係）、山本財政課課長補佐（歳入関係）】

資料 1 「財政の健全化に向けた集中取組の具体的取組とWGの提言との対比」及び「三重県財政の健全化に向けた集中取組（素案）」における「三重県財政のめざす姿」（P. 4）について説明。

- ・（1）事務事業の見直しが最も重要であると考えている。
- ・（5）総人件費の抑制については、関係団体との調整のうえ、最終案の段階で詳細に言及する。
- ・（6）維持管理費の抑制にかかる中期的取組は、県有財産の必要性とその管理のあり方についての検討を踏まえて、順次実施する。
- ・（8）事業の選択と集中を図る仕組みの見直しにおける大規模臨時的経費の選択と集中については、予算調製方針で具体的に示す。

【山口教育長】

- ① 人件費と事業費の土俵が違うというルールを変え、スクラップ・アンド・ビルドに際しては、例えば、非常勤職員の人件費は別枠とするのではなく、新規事業の財源に充てるというようなことをできるようにしてほしい。
- ② 事業見直しの際には、流用額や不用額の差が大きいものに着目してはどうか。
- ③ パソコンや公用車の〇年ごとといった一律更新をやめ、古いものも使う姿勢を県民に見せてはどうか。
- ④ 行財政改革推進本部で公債費にキャップをはめているのは知っているが、国体のようなイベントによる将来世代も均等に負担することをどう捉えるかといった視点もある。第二次行動計画の船出の年であるのに、お金がないからやらないと言えるのか。大きなイベントをやっていけるかも考えないといけない。厳しいシーリングは単年では可能でも、3～4年続けてできるのか。後年度の負担をどのように捉えるかであり、イベントをやるなら県債を発行するのもある程度はやむを得ない。実質公債費比率を 13.1%にということだが、総務省への協議不要基準内等にしてはどうか。現状では国体基金を十分に積めておらず、他の事業を切らないといけない。短期的、中長期的なお金の出入りを考えていく必要がある。

【嶋田総務部長】

- ① 人員を増やすときは各部局の負担ということになると思うが、検討する。
- ② 余分なお金がないよう厳しく見ていくが、不用額は財政調整基金へ繰り越し、次年度予算の原資となっている面もある。予算の段階できちんと精査することも重要である。
- ③ 車の耐久性は 10 年 10 万キロというが、実際はもっと乗っていると思う。使え

るものを使っていくというのは良い提案だと思う。

④ 現在の財政状況として、過去に発行した県債の償還に苦しんでいるということがある。後年度へ負担を先送りにするというのは、今回の集中取組の基本路線から離れてしまう。一方、毎年度の政策ニーズに応えることも大事であり、バランスの問題かと思う。

【福井防災対策部長】

たとえば歳入確保に取り組んだ分を部局の特定財源とする等、各部局へのインセンティブが必要である。

【嶋田総務部長】

検討する。

【服部地域連携部長】

① 集中取組 (P. 3) における経常収支比率の改善について、「公債費や社会保障関係経費の増加が見込まれることをふまえ」という書きぶりはこのままで大丈夫か。

② 事業の休止パターンの例 (集中取組 P. 14) は、予算議論といった事務レベルにおける現状を踏まえるとよい例ではないように思う。

【嶋田総務部長】

① 検討する。

② 250 万円の事業費で 2 回実施するより、500 万円で 1 回行った方が効果的という考え方もあるのではないか。

【水島観光局長】

個々のパーツはそのとおりだが、全部をつなぎ合わせたときにずれが生じていないか。人が減り、時間外勤務も減らし、事業量も変わらない、というのでは厳しい。内部管理事務も見直してほしい。すべて実行した場合のシミュレーションはできているのか。

【嶋田総務部長】

そのようなことを踏まえ、事業・業務の洗い出しが必要と考えている。それによって人の見直しも可能となり、ワーク・ライフ・マネジメントの取組も進む。すべて実行した場合のシミュレーションはしていないが、できるものからしていくという趣旨であるので、ご協力をお願いしたい。

【渡邊副知事】

ネガティブに捉えると進まないため、どうやってポジティブに捉えていくかということが大事。工夫できるものを提言いただきたい。すべてをやったらどうなるか、ということについてはバランスの問題である。前向きをお願いしたい。

【知事】

今日は提案も出てきて良い会議だった。皆の知恵や経験を出し合ってほしい。このような取組に終わりはない。